

起業応援ルーム 芽でるネット

「芽でるネット」は『女性』の起業と就労を応援する専用ルームです。『女性』の起業・就労活動を応援することで、女性の社会的・経済的自立を段階的に支援することを目的としています。

● 就労支援講座 「自分らしい働き方を描く」

何かを変えたいけど、何からやればいいかわからない…。
自分を見つめる時間が欲しい…。自分にあった働き方って？
テレワークってよく聞くけど、どんな働き方？

日時：11/6・13・20（各水曜）10：00～12：00
場所：起業応援ルーム 芽でるネット（プラザおでって1階）
内容：①自分らしさ発見！これからを思い描こう
②先輩の経験を聞いてみよう&就活もやもや座談会
③就活の幅を広げるためのExcel&はじめてのZoom体験
対象：再就職を目指す女性
※ひとり親・盛岡市内在住の方優先・原則全3回参加できる方
定員：10人
受講料：無料
託児：子ども1人につき1回500円（6か月～未就学児）
先着2人 要申込
申込：10月4日（金）10：00～10月15日（火）16：00
申込フォームにて受付（選考）



申込はこちら

12月スタートの『女性起業芽でる塾』が「特定 創業支援等事業」として国に認定されました！！

□ 特定創業支援等事業とは
「経営」「財務」「人材育成」「販路開拓」の知識を身に付けていただくための事業。トータルで上記4つの内容の支援を受けた上で、起業・創業しようとする市町村に申請頂くと、「特定創業支援を受けた者」として市町村が認定します。

□ 認定されたらどうなるの？
1.会社設立時の登録免許税の軽減
2.創業関連保証の特例
3.日本政策金融公庫の「新規開業資金」の貸付利率引き下げ
4.補助金申請におけるメリット
「小規模事業者持続化補助金」の『創業枠（補助上限額200万円）』に申請可能。

「女性起業芽でる塾」については、
随時、Instagramでお知らせします！



起業応援ルーム 芽でるネット

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-10 プラザおでって1階
電話 (019) 604-3303
開室日時 月曜日～金曜日 10：00～12：00/14：00～17：00
休室日 土日祝、毎月第2火曜日、年末年始

最新情報は、Instagramをチェック▶

事業のお知らせの他にもお部屋の様子や出店体験のスケジュールなどを投稿しています。是非フォローして情報をGETしてください。



MEDERU.NET.2023

相談

受付電話 **019-604-3304** 相談開設時間 月・火・金 10：00～17：00
水・木 10：00～20：00
相談は無料です。秘密はかたく守ります。

● 女性相談

女性がかかえる、家庭や職場、身の回りのさまざまな悩みを、専門の相談員と一緒に考えます。性別や社会通念にとらわれず、一人ひとりの生き方を尊重する社会の実現をめざして、相談室はあなたらしい生き方を支援します。電話相談と面接相談があります。（予約の方優先）また、メール相談も受け付けます。ホームページの相談フォームから

● 男性相談

男性の相談員による面接相談。予約が必要です。電話相談のみ。予約が必要です。原則毎月第2土曜日に実施予定です。場所などの詳細はホームページでご確認ください。

● LGBT相談

女性限定 お気軽にお立ち寄りください♪
ウィメンズサロン・ゆるり
気軽におしゃべりしたい方も
静かに自分の時間を過ごしたい方も
すこしだけ日常から離れて落ち着ける場所
毎月第4水曜日
17：00～19：00
プラザおでって1階
起業応援ルーム 芽でるネット



アンケートにご協力ください

もりおか女性センターニュースレターでは、今後のより良い紙面づくりのため、アンケートを実施しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、Googleフォームにてお受けいたします。

発行日：令和6年9月9日

発行：もりおか女性センター

（指定管理者：特定非営利活動法人 参画プランニング・いわて）

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-10プラザおでって5階
電話番号 (019) 604-3303 FAX (019) 601-4031
開館時間 月曜日～金曜日 9：00～21：30（土日祝17：00まで）
休館日 毎月第2火曜日、年末年始



最新の情報は
ホームページから！



事業のご案内、スタッフのつぶやき…



X (旧Twitter)



Instagram

もりおか女性センター 2024年度事業テーマ「チェンジ！誰もが自分らしく生きる未来へ」

もりおか女性センター

ニュースレター

News Letter N°109
2024.9

特集

地域の多様な人たち「みんな」を
「みんな」で助け合うために。

防災の日

学ぶ

学習・研修の機会の場合

出会う・力をつける

活動促進・交流の場合

悩み・考える

相談

考え究める

調査・研究事業

知る

情報提供・収集場所

もりおか女性センターは、
女性の自立と社会参画を支援するとともに
男女共同参画を推進する拠点です。



9月1日は防災の日

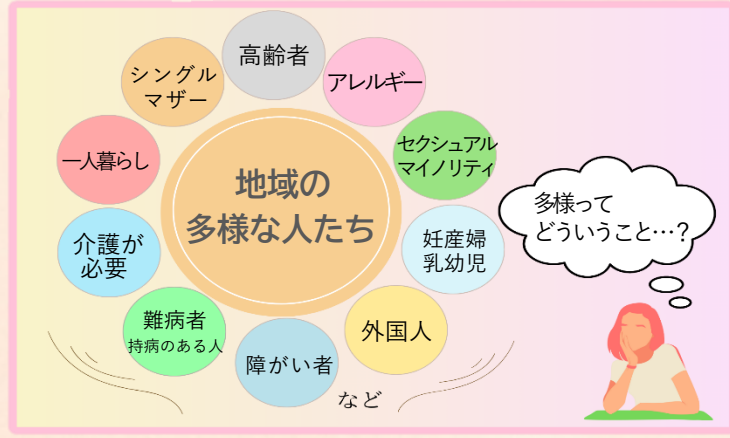
日常生活の中で常に意識しておくことは難しい「防災」ですが、いざという時のために備えていることはありますか？
防災の日をきっかけに、日ごろの対策や、地域における防災の在り方について考えてみませんか？

地域の多様な人たち「みんな」を「みんな」で助け合うために。

地域には、年齢、障がい、国籍、経済状況や家族構成など、様々な背景を持った人たちが暮らしています。災害は全ての人の生活を脅かすものですが、その人の持つ背景や特徴によって受ける影響は異なります。では、災害時においても多様な人々が安全・安心に暮らす地域を作るためにはどんなことが必要なのか考えてみましょう。

「多様な視点」の必要性

災害はすべての人を襲いますが、直面する問題はそれぞれ違います。一人一人の人権を尊重し理解しあうことが大切です。



東日本大震災では、犠牲者の過半数を高齢者が占め、また、障がい者の犠牲者の割合についても、被災住民全体と比較して2倍程度にのぼったといわれています。高齢者や障がいをもった人など特別な配慮が求められる場合には、生活環境が十分に整備されたとはいえない避難所で、長く生活することを余儀なくされた結果、健康を害し、復旧・復興に向けての生活再建への移行に困難を生じているケースも見られるといえます。

災害時に浮き彫りになる「課題」・・・

大規模災害時の避難所は、避難者自身や地域の人も運営に参加・協力していく必要がありますが、避難所の意思決定を行うのは自治会や自主防災組織の役員を務める男性が中心で、女性は炊き出しといった固定的な性別役割分担が主流となっているのが現状です。災害時にはこうした性別・立場によって異なる困難が浮き彫りになります。

例えばこんな問題が・・・

着替えや授乳するための仕切られたスペースがない、男女別のトイレがない...
「プライバシーが守られない...」という避難所運営では、性暴力が起るリスクを高めてしまいます。

物資配給の場に男性しかいないと、女性用下着や生理用品を受け取りにくいと感じませんか？

男性も、疲弊していても休まずに救援活動や事業復旧に従事してしまうことが多く、ストレスも溜め込みがちになる傾向があります。

災害関連死の約半数が「避難所における生活の肉体的・精神的疲労」

「災害関連死」とは、地震や津波など直接的な被害による死ではなく、災害によるけがや避難生活による健康状態の悪化などが原因で死亡することを指しています。東日本大震災では令和5年12月末までに3,802人の方が災害関連死(自殺を含む)で犠牲になりました。また、災害関連死による犠牲者の大半が高齢者です。(出典：復興庁「東日本大震災における震災関連死の死者数」令和6年3月1日)

今年1月に起きた能登半島地震による犠牲者は339人、内、災害関連死は110人となる見込みです。その中で、これまでに災害関連死の認定理由が公開された30人のうち半数以上に当たる16人は避難所の環境が体調の悪化につながったことが分かっています。(出典：石川テレビ、NHK 令和6年7月31日時点)

男女共同参画の視点からの防災

多様な立場の人々が発言の機会を与えられ、災害対策の担い手となることで災害に強い地域づくりの実現に欠かせません。そのためにも、平常時の防災体制や地域の防災活動を男女共同参画の視点で進めることが大切です。

男女共同参画が重要な理由

多様な人々
性別、性自認、年齢、国籍、家族構成、経済状況など

避難行動要支援者/要配慮者
乳幼児、高齢者、心身の障がい者、妊産婦、けが人、難病患者など

被災者一人一人直面する問題は違う
地域に暮らす多様な人々の「違い」に配慮した体制・支援が必要

引用元：千葉県浦安市 令和3年度防災リーダー研修

重要なのは、地域の人々の多様性を知り、理解すること。そして、地域に暮らす「みんな」が「みんな」で助け合うために、それぞれが力を発揮できるような仕組みを作ること。災害に強い地域を「みんな」で作っていくために、小さくてもできることを積み重ねていくことが、安全・安心な未来へとつながっていきます。

防災の日をきっかけに、自分が暮らす地域について考えたり、備蓄品や避難場所について再確認するなど、身近なことから取り組んでいきましょう。

11.19 国際男性デー

1999年、男性や男の子の健康、男性のロールモデルなどに目を向け、ジェンダーの平等を促す日として、カリブ海の島国トリニダード・トバゴで始まったとされています。

「男」とか「男性」とか、「らしさ」とか、いったい何なのか。

男女共同参画やジェンダー平等というと、女性のエンパワーメントが注目されがちですが、決して女性だけの問題ではありません。性別にとらわれず誰もが自分らしく活躍できる社会を実現するため、この機会に「男性にとってのジェンダー平等」という視点から考えてみるのはいかがでしょうか。

もりおか女性センター事業のご案内

随時開催 防災出前講座

女性・高齢者・障がい者など、「多様な視点」から地域防災を学んでみよう！

講座の様子です

東日本大震災発生後、もりおか女性センターが行ってきた活動の紹介をはじめとし、過去の大規模災害の教訓を踏まえ、いつ発生するかわからない災害に備えることの大切さをお話しています。グループワークやクイズなどを交えた講座となっていますので、地域のつながりを再確認しながら多様な視点の地域防災について学んでみませんか？

会場：各地域の集会所や公民館など（オンラインでも対応可）
申込方法：電話（019-604-3303）
※開催希望日の2か月前までにお申し込みください。

市民団体支援事業のご案内

過去の震災から考える防災と男女共同参画

もりおか女性センターでは、市民活動を行っている団体と連携・協働し、事業を企画・実施しています。今年度、初めての実施となる「防災アクショングループ」の事業をご紹介します！

過去の災害に関する画像や資料などを持ち寄り、グループワークや意見交換を行います。過去の災害からみえる課題を共有し、男女共同参画の視点をとらえた防災を学びます。

他にも「介護」「町内会活動」をテーマに市民団体による事業を実施予定です！詳細はもりおか女性センターHP・SNSで発信予定です！

「なくそう！女性に対する暴力2024」

11月12日(火)～11月25日(月)

ライトアップに込める「ひとりで悩まず、ぜひ相談してほしい」というメッセージ

女性に対する暴力を根絶するためのパープルリボンプロジェクト。東北電力ネットワーク株式会社若手支社の鉄塔がパープル色にライトアップされます。この機会に、女性に対する暴力の根絶について考えてみませんか？

内閣府が2021年に20～60代の男女計約1万人を対象に調査したデータによると、76.3%がアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を持っていることが判明しました。社会から期待される「男らしさ」や「男なんだから」という知らない間に刷り込まれたアンコンシャス・バイアスが、男性の生き方や働き方の選択肢を狭め、男性の「生きづらさ」につながっているのかもしれない。

NWECチャンネル

国立女性教育会館が開設するNWECチャンネルでは、男性学の第一人者である伊藤公雄さんの動画を配信しています。もりおか女性センターの図書コーナーでは伊藤さんの著書も配架しています。

防災連続講座 ボウサイ × ジェンダー ～備えておきたい「コト」と「モノ」

9/28・10/5・10/19 (土)
10:00～12:00 10/19は13:00まで

対象：テーマに関心のある方
定員：公開講座（第1回のみ）：30人
連続講座（第1回～第3回）：20人
※全部の回に参加できる方優先

会場：第1回：プラザおでって大会議室（プラザおでって3階）
第2回・第3回：もりおか女性センター生活アトリエ（プラザおでって5階）

申込方法：9/5（木）10:00～もりおか女性センターホームページ申込フォームまたは電話（019-604-3303）にて、先着順に受付

詳細はもりおか女性センターHPをご覧ください。

男女共同参画の視点からの防災について知識を深めながら、災害時においても誰もが安心・安全に過ごすことのできる環境づくりを進めていくにはどうしたらよいかを考え、実践する全3回の講座です。グループワークや調理演習を行いながら、未来に備えておきたい「コト」と「モノ」について一緒に考えます。

参加無料

第1回 防災の基本とジェンダー視点
第2回 防災マイボトルを作ろう！
第3回 防災食を作ろう！

申込はこちら